

第5回「山形県家計消費動向調査」結果 (平成19年9月調査)

【調査結果の要旨】

- ◆ 消費指数は前回調査時点(平成19年6月)よりも12.0ポイント低下し、77.0となるなど、消費マインドは依然として低調となっている。
- ◆ 今後の見通しについては、消費指数が2.8ポイント低下し79.8となるなど、低調のまま推移する見通し。
- ◆ 最近1ヵ月におけるの全世帯の平均収入額(手取額)は497,401円であり、前回調査時点よりも80,580円の増収であった。また、昨年と同じ時期と比べても21,141円の増収であった。一方、平均支出額は374,420円であり、前回調査時点と比べて12,480円増えたほか、昨年と同じ時期と比べても44,583円増えた。なお、平均消費性向は75.3%となっている。
- ◆ 特別調査：夏季ボーナスの支給状況と使い道について

<お知らせ>

今回、モニター世帯の一部を入れ替えて調査を実施しました。前回までと同じモニター世帯は278世帯、新たに追加したモニター世帯は206世帯です。

平成19年9月

株式会社荘銀総合研究所

目 次

・ 今月の消費指数	1
・ 今月の家計簿	3
・ 調査結果	4
1 . 景気判断と見通し	4
県内景気	4
雇用環境	5
日用品価格（物価）	6
2 . 暮らし向き判断と見通し	7
世帯（勤労）収入	7
資産価値	8
お金の使い方	9
生活のゆとり	10
3 . 日常の買い物に関する判断と見通し	11
嗜好品（お茶・コーヒー、お酒、たばこなど）	11
ファッション衣料・靴など	11
家電・AV製品、家具など	12
金融商品（株式、債券など）	12
娯楽・レジャー	13
習い事	13
交際費	14
4 . 大きな買い物に関する判断と見通し	15
自家用車	15
住宅の購入・リフォーム	15
5 . 特別調査：夏季ボーナスの支給状況と使い道	16
ボーナス支給の有無	16
支給状況	16
主な使い道（複数回答）	17
・ 調査の概要	18

・今月の消費指数

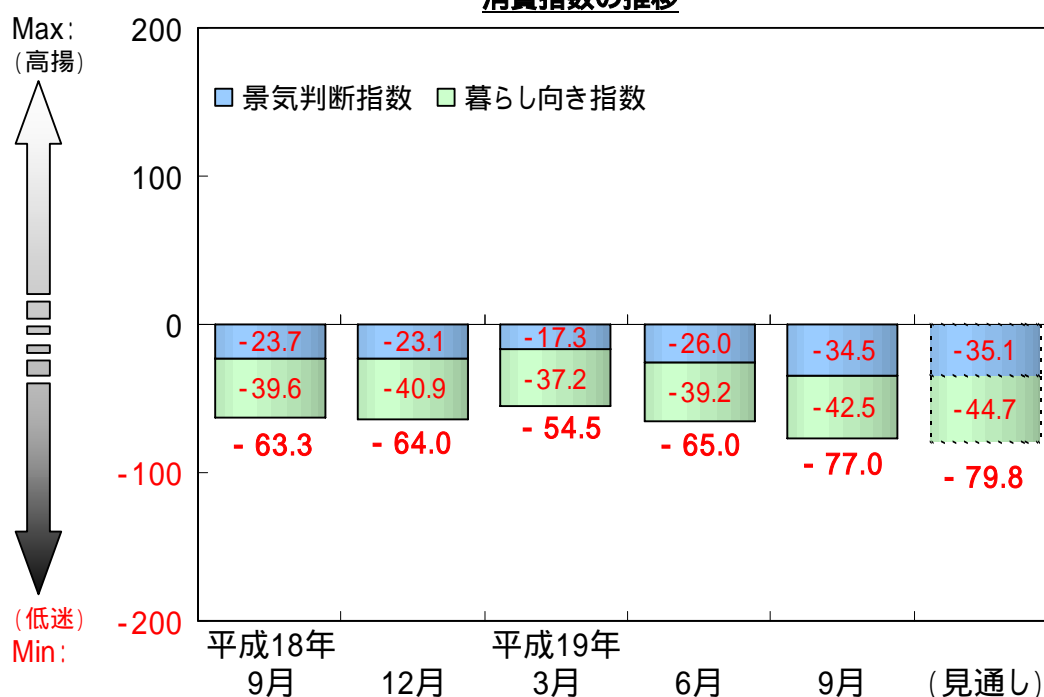
消費指数は 77.0 ~ 消費マインドは低調 ~

消費指数は前回調査時点（平成19年6月）よりも12.0ポイント低下し、77.0となるなど、消費マインドは依然として低調となっている。

消費指数の内訳は景気判断指数が34.5、暮らし向き指数が42.5となっており、いずれも前回より低下した。なかでも、景気判断指数が低下したのは、景気に対して弱気な見方が広がったことと雇用環境の悪化を懸念する消費者が増えたことによる（次頁参照）。

なお、今後の見通しについては、消費指数が2.8ポイント低下し79.8となるなど、低調のまま推移する見通し。

消費指数の推移



【指数の見方】

消費指数は景気判断指数と暮らし向き指数の合計からなり、値は200～200の範囲をとります。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します（詳しくは、調査の概要6. 指数の作成方法をご覧ください）。

景気判断指数（指数レンジ 100～100）:

家計を取り巻く経済環境をどのように認識しているかを表した指数です。「県内景気」、「雇用環境」、「日用品価格（物価）」に関する設問の回答結果から作成されます。

暮らし向き指数（指数レンジ 100～100）:

“我が家の暮らし向き”をどのように認識しているかを表した指数です。「世帯収入」、「資産価値」、「お金の使い方」、「暮らし向き」に関する設問の回答結果から作成されます。

消費指数の推移（内訳）

	平成 18 年		平成 19 年		9 月	見通し
	9 月	12 月	3 月	6 月		
消費指数	- 63.3	- 64.0	- 54.5	- 65.0	- 77.0	- 79.8
（前回差）		(- 0.7)	(9.5)	(- 10.5)	(- 12.0)	(- 2.7)
景気判断指数	- 23.7	- 23.1	- 17.3	- 25.9	- 34.5	- 35.1
（前回差）		(0.6)	(5.8)	(- 8.6)	(- 8.6)	(- 0.6)
景気	- 6.1	- 7.6	- 4.7	- 5.6	- 8.8	- 8.9
（前回差）		(- 1.5)	(2.9)	(- 0.9)	(- 3.2)	(- 0.1)
雇用環境	- 3.6	- 5.0	- 4.0	- 3.9	- 9.1	- 8.6
（前回差）		(- 1.4)	(1.0)	(0.1)	(- 5.2)	(0.5)
物価	- 14.0	- 10.5	- 8.6	- 16.4	- 16.6	- 17.6
（前回差）		(3.5)	(1.9)	(- 7.8)	(- 0.2)	(- 1.0)
暮らし向き指数	- 39.6	- 40.9	- 37.2	- 39.1	- 42.5	- 44.7
（前回差）		(- 1.3)	(3.7)	(- 1.9)	(- 3.4)	(- 2.1)
世帯収入	- 8.0	- 8.0	- 6.8	- 6.8	- 8.7	- 10.7
（前回差）		(0.0)	(1.2)	(0.0)	(- 1.9)	(- 2.0)
資産価値	- 9.7	- 10.1	- 9.0	- 9.9	- 9.3	- 11.0
（前回差）		(- 0.4)	(1.1)	(- 0.9)	(0.6)	(- 1.6)
支出状況	- 8.6	- 9.4	- 8.5	- 9.6	- 10.6	- 11.5
（前回差）		(- 0.8)	(0.9)	(- 1.1)	(- 1.0)	(- 0.9)
暮らしのゆとり	- 13.3	- 13.4	- 12.9	- 12.8	- 13.9	- 11.6
（前回差）		(- 0.1)	(0.5)	(0.1)	(- 1.1)	(2.4)

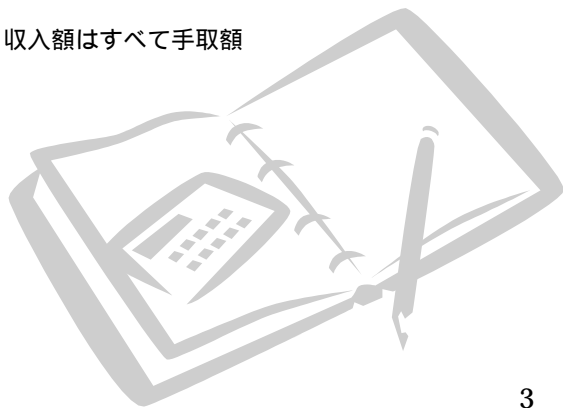
・今月の家計簿

最近1ヵ月におけるの全世帯の平均収入額（手取額）は497,401円であり、前回調査時点よりも80,580円の増収であった。また、昨年と同じ時期と比べても21,141円の増収であった。一方、平均支出額は374,420円であり、前回調査時点と比べて12,480円増えたほか、昨年と同じ時期と比べても44,583円増えた。なお、平均消費性向は75.3%となっている。

（単位：円）

		平成18年 9月	平成19年 6月	9月	前回差
収入	定期収入	266,332	258,734	249,777	-8,957
	臨時収入	52,389	5,775	41,522	35,747
	1.世帯主の収入	318,721	264,509	291,299	26,790
	他の人員の定期収入	118,829	124,981	115,873	-9,108
	他の人員の臨時収入	18,258	4,375	22,795	18,420
	2.他の人員の収入	137,087	129,356	138,668	9,312
	社会保障給付	-	-	27,339	-
	預(貯)金引き出し	-	-	22,280	-
	借り入れ	-	-	2,702	-
	財産売却	-	-	387	-
	その他	-	-	14,726	-
	3.その他収入	20,452	22,956	67,434	44,478
	・収入計	476,260	416,821	497,401	80,580
支出	1.食費	55,472	55,315	58,022	2,707
	2.住居費	46,395	46,022	45,231	-791
	3.水道・光熱費	38,821	25,064	22,338	-2,726
	4.通信・交通費	38,440	32,134	31,880	-254
	5.被服・装飾費	29,978	14,642	11,791	-2,851
	6.各種保険料の支払い	24,895	39,594	44,320	4,726
	7.医療・介護費	24,611	11,216	11,940	724
	8.育児・教育費	23,065	27,611	26,571	-1,040
	9.仕送り	15,562	11,997	9,065	-2,932
	10.小遣い	12,245	41,970	45,586	3,616
	11.ローン・月賦の支払い	10,984	15,913	19,564	3,651
	12.その他支出	9,369	40,462	48,112	7,650
	・支出計	329,837	361,940	374,420	12,480
平均消費性向(支出計÷収入計×100)		69.3%	86.8%	75.3%	-11.5%ポイント

収入額はすべて手取額



< 平均的な世帯像 >

世帯主: 48.3歳

世帯人員: 4.0人

収入の担い手: 1.9人

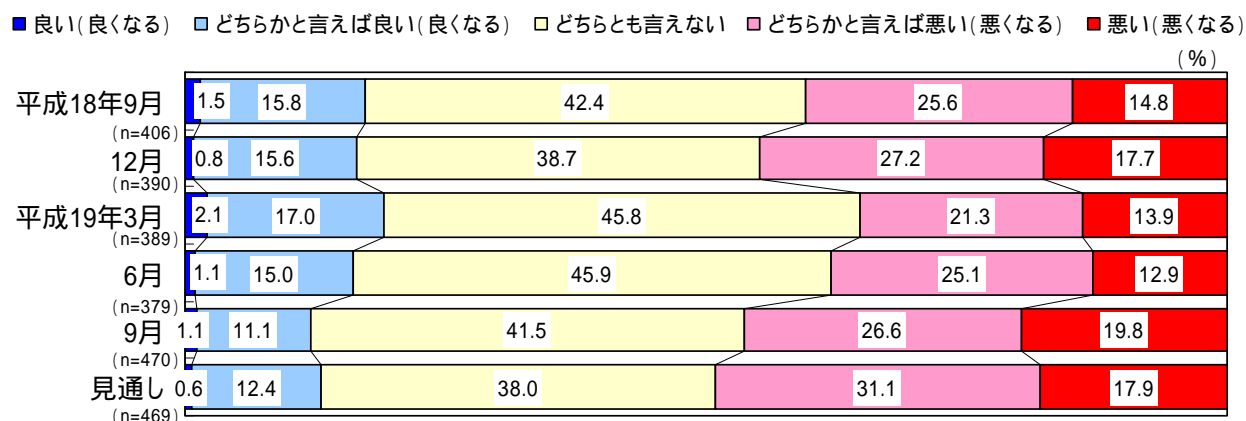
持ち家率: 74.5%

調査結果

1. 景気判断と見通し

県内景気

現状認識は「悪い」(19.8%)と「どちらかと言えば悪い」(26.6%)が46.4%を占めており、前回調査時点と比べて県内の景気に対して暗い認識を持っている世帯が増えた。また、今後の見通しについても「悪い」(17.9%)と「どちらかと言えば悪くなる」(31.1%)と考えている世帯の割合が増え、49.0%の世帯が悪くなると予想している。



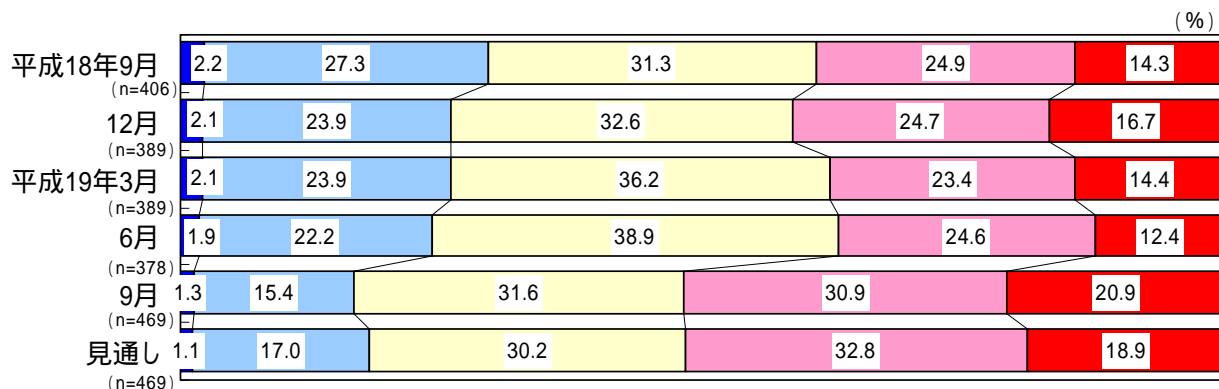
【主な自由回答 (住まい、世帯主年齢、世帯収入)】

- ・ 景気が良いというのは都会に限っての話で、田舎はどんどん弱っている状態だと思います。(置賜地区 74歳 300~499万)
- ・ 年々、暮し向きは厳しくなっていると感じる。景気が良いのは、東京だけなのでは？(庄内地区 48歳 500~799万)
- ・ 目に見えて景気が良くなっているとは言えず、何の仕事をしている人の景気が良いのか不思議に思います。(置賜地区 34歳 500~799万)
- ・ 景気が向上しつつあるという報道はあるが、今は実感できない。(庄内地区 48歳 500~799万)
- ・ 報道ほど景気が良くなったと実感できません。格差社会が深まっているというのが実感です。消費税増税は避けて通れないと思うし、明るい希望のない生活状態が続いています。(村山地区 38歳 500~799万)
- ・ 景気が良くなっていると言われていたが、まだまだ言えないと思う。格差が広がっている。(村山地区 36歳 300~499万)
- ・ 世の中景気がよいというけれど、山形(庄内だけだろうか)は、あまりそういう気配を感じられない。ガソリン代も高くなっているし、家計は厳しくなる一方だ。(庄内地区 41歳 300~499万)
- ・ 景気回復の実感がわからない。日用品は少しでも安いものを探して、支出を減らすようにしている。マイカー通勤の為、ガソリンの高騰に頭を悩ませている。(庄内地区 55歳 -)
- ・ マイホーム購入を検討しているが、将来に不安があり、住宅ローンを組むのに勇気が必要。好景気を庶民が実感できる状態にはない。(村山地区 33歳 500~799万)
- ・ 母子暮らしで生活にゆとりがありませんが、できるだけ外に目を向けています。格差社会が気になります。(村山地区 58歳 300~499万)
- ・ 格差社会を強く感じます。実力・実績があっても正社員になれない世の中に、疑問・不安・怒りを感じてなりません。(庄内地区 46歳 500~799万)
- ・ 地域格差・職業格差を最近感じています。格差はあっても、支払う金額は、あまり格差がないと思います。僅かなパートの給料にも税金がかかるし、ガソリン代は上がるし、給料は上がらないし。(村山地区 51歳 500~799万)
- ・ 所得が減っているの、山形全体が暗いと思う。地域格差がかなり出ていると思う。将来に対して希望が持たないので、悪循環が広がり、みんなの希望が失われていると思います。(村山地区 31歳 ~299万)

雇用環境

現状認識は「悪い」(20.9%)と「どちらかと言えば悪い」(30.9%)を合わせると51.8%が悪いと判断しており、雇用不安が広がっている。また、今後の見通しについても「悪くなる」(18.9%)と「どちらかと言えば悪くなる」(32.8%)と考えている世帯は51.7%となっており、先行きの見通しも暗い。

■ 良い(良くなる) □ どちらかと言えば良い(良くなる) □ どちらとも言えない □ どちらかと言えば悪い(悪くなる) ■ 悪い(悪くなる)



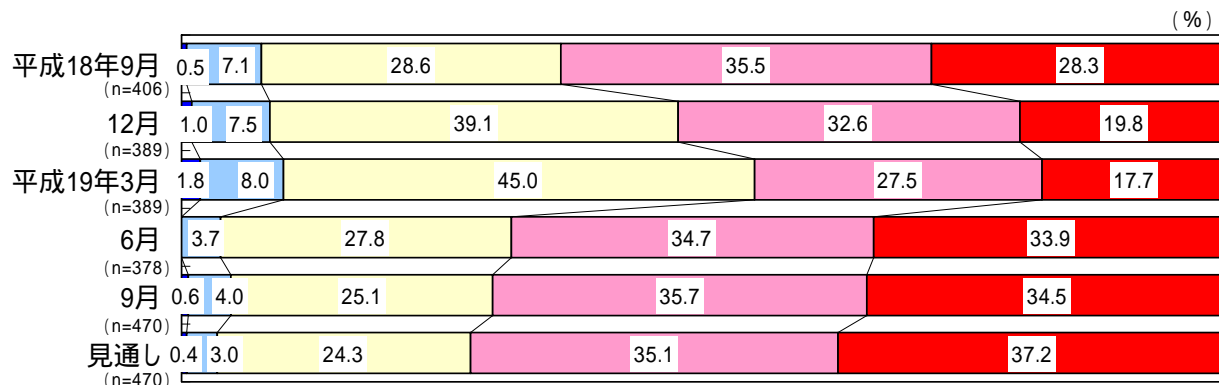
【主な自由回答 (住まい、世帯主年齢、世帯収入)】

- ・ パートから社員に転職したいと思うが、年齢・資格・時間帯等、若い人以上に厳しい。しかし、厚生年金に加入しておかないと・・・とヒシヒシと最近思うところがある。(庄内地区 46歳 500～799万)
- ・ 主人の会社も決して安定しているとは言えず、子供が中学生になり、出費が嵩む。毎月の貯金額も増やさないといけないが、賞与もなく、収入額が不安定なので、生活費を切り詰めないといけない。雇用の安定を望むが、それもなかなか叶わない。ハローワークはいつも人がたくさんいる。(庄内地区 38歳 ~299万)
- ・ 特に庄内では、雇用環境が改善しているとは思えない。地域によってばらつきがある。(庄内地区 67歳 300～499万)
- ・ 毎月の給料分で生活できない状態で、少しずつ貯金を使い始めた。子供が小さいので仕事もパートを探しているが、自分に合う条件の仕事が少なく、決まらない。(庄内地区 41歳 500～799万)
- ・ 20才になる息子がいますが、仕事はしているものの正社員ではなく準社員として働いています。将来の事を考えると社員として働ける職場はないかと求人広告を見していますが、なかなかありません。やっぱり、安定した日常生活を送るには安定した収入でないと不安です。(置賜地区 55歳 500～799万)
- ・ 年数が経ってもパートの時給は上がらないので安定感は全く感じられない。(庄内地区 48歳 500～799万)
- ・ 夫がリストラになり、今は派遣なので給料は稼働した分のみ。賞与もない。退職金は受取りましたが、年金がどれくらいになるのか不安なので、手をつけず老後の準備にしたいと思っています。(庄内地区 56歳 500～799万)
- ・ 厳しい。就業状況もなかなか良くなる。もう少し働きやすい環境が整えば、家計にもゆとりが出るのだが。子育てにも力を入れたい気持ちもあるので、なかなか上手くいかない。精神的に気持ちが定まらない状態です。収入が増えれば、今の状況が上向きになるのだけれど。(最上地区 38歳 ~299万)
- ・ 転職を考えていますが、少し前から求人が減っています。また、社内では残業が増えているものの、それが無くなれば、仕事はまた少なくなると思います。地域差を実感したり、今後の生活がなんとなく不安になる事があります。(村山地区 32歳 300～499万)
- ・ パートだというのに、サービス残業が減らない。一ヶ月の残業時間は15時間と決められており、それ以上になっても記録できない。労組も弱く、働く環境は悪化している。(置賜地区 42歳 300～499万)
- ・ 7月より、2つの仕事を掛け持ちでしている状態です。時給の安さに驚いています。未来ある若者達が正社員として働く事のできない現在を、とても悲観視します。(庄内地区 - 300～499万)

日用品価格（物価）

現状認識は「上がった」（34.5％）と「どちらかと言えば上がった」（35.7％）が70.2％を占めるなど、日用品価格に対して値上がり感を抱く世帯が多い。また、今後の見通しについても、値上がり予想が過半数を大きく上回っており、物価上昇に対する警戒感は極めて高い。

■ 下がった(下がる) □ どちらかと言えば下がった(下がる) □ どちらとも言えない □ どちらかと言えば上がった(上がる) ■ 上がった(上がる)



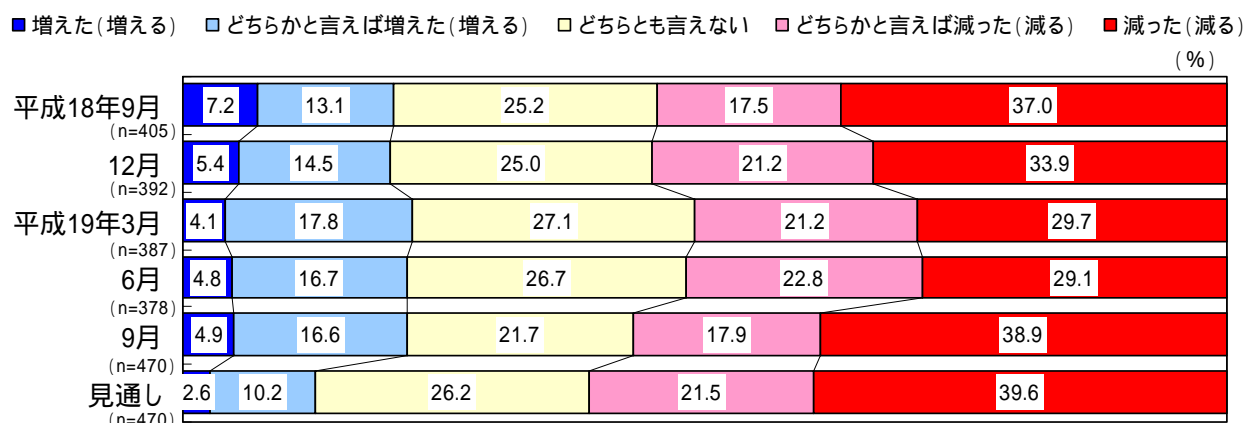
【主な自由回答（住まい、世帯主年齢、世帯収入）】

- ・ ガソリンが高すぎる。家は田舎の為自転車というわけにはいかない。バスも電車も無い。車がなければ生きていけない地域なのに、すべてが高すぎる。(村山地区 34歳 300～499万)
- ・ ガソリンの高騰が家計に影響し、できるだけ車を使わない範囲で消費活動を行っている。(庄内地区 61歳 300～499万)
- ・ 少し前までは、食品や日用品が以前と比べて安かったが、最近は少し高くなっている。私達は、転勤族だが、山形のスーパーは値段が高いと思う。光熱費も、今まで住んでいた中で一番高くて、ビックリしました。(村山地区 41歳 800万～)
- ・ 県外から山形に来て、山形は物価が高いと感じる。特に食料品。(村山地区 30歳 500～799万)
- ・ 紙類の価格が上昇していると感じる。(村山地区 50歳 500～799万)
- ・ ガソリンの値上がりに始まり、食品・衣類など買物に行く度に高いなあと感じるこの頃です。安い野菜は外国産。主婦としては頭の痛い所です。(村山地区 58歳 300～499万)
- ・ 光熱費等はムダに使わないようにしているが、原油高騰で値上げになっていて、全く減らない。(庄内地区 27歳 300～499万)
- ・ 夏は暑くクーラーをつけるが多かったので、電気・水道代はいつもよりアップした。ガソリンもぐんと上がったので、旅行時などの出費が増えた。(庄内地区 34歳 300～499万)
- ・ ガソリンの値上がり、とても痛い。通勤で必ず使うので、家計に直接ひびいてきます。今後、価格が下がってくれる事を期待します。(村山地区 33歳 300～499万)
- ・ 生活用品やガソリン等の値上げの為、暮らしは良くならない。(村山地区 28歳 300～499万)
- ・ ガソリン代、灯油代が値上がり。猛暑のため電気代がかかり、今後とも油の価格動向が心配です。(置賜地区 51歳 500～799万)
- ・ 物価が高くなっている。ガソリンも高く、紙オムツもいつの間にか1割も高くなったようだ。(村山地区 35歳 800万～)
- ・ 収入が増えても、食品やガソリンの値上りで、貯金どころか赤字に転じている。(置賜地区 43歳 800万～)
- ・ ガソリン、食品類が次々と値上げされ、ますます大変になりそうだと思う。給与が上昇しつつあるが、その分、製品・サービスに転嫁され、消費もきつくなる。(庄内地区 48歳 800万～)

2.暮らし向き判断と見通し

世帯（勤労）収入

現状認識は「減った」(38.9%)と「どちらかと言えば減った」(17.9%)が56.8%を占めており、引き続き半数以上の世帯が収入は減ったと感じている。また、今後の見通しについても、収入が「減る」と考えている世帯の割合が増えているなど、収入の増加に期待する世帯は少ない。

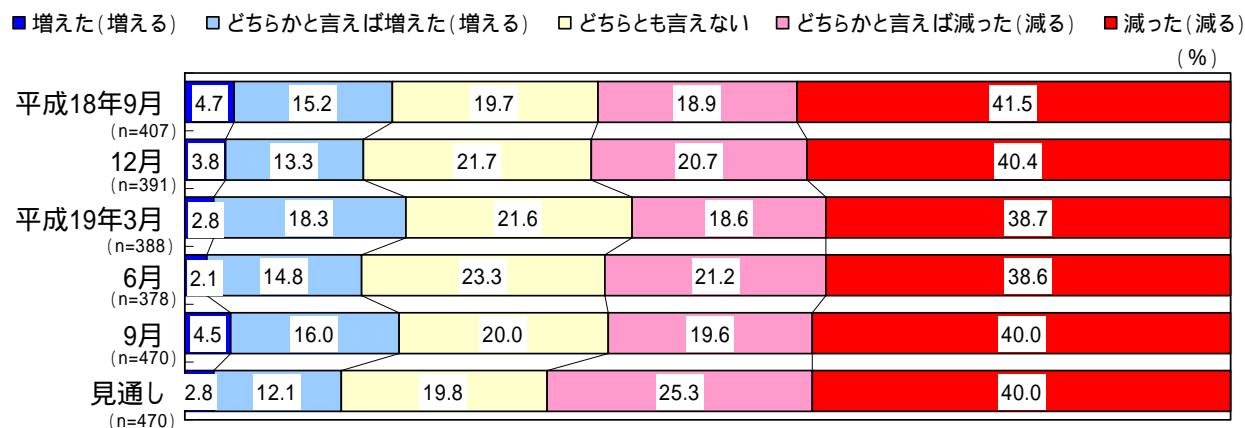


【主な自由回答（住まい、世帯主年齢、世帯収入）】

- ・ 会社の業績が昨年より悪いので、賞与が支給されないのが家計を苦しめている現況です。将来の学費のために預金を増やしたいが、難しいです。(最上地区 50歳 500~799万)
- ・ 仕事は昨年以上に忙しいのに、給料は上がらない。時間の余裕もなくなってきている。人が減ったのに補充されず、帰宅時間が遅くなって、子供と接する時間がない。仕事を辞めて育児に専念したい気持ちもあるが、現実的にムリだ。(村山地区 27歳 300~499万)
- ・ 私の家では、ボーナスが出たのは、私1人でした。公務員などもらっている人は、かなりもらっているようですが、出ないところは本当に1円も出なくて、これが現実なのだ実感します。(置賜地区 51歳 500~799万)
- ・ 生活の質は、毎年低下しているようで、子供が大きくなればなるほど、お金の面で大変です。仕事の量が増えても収入が増えないのが実状です。(村山地区 43歳 300~499万)
- ・ 私のボーナスは冬と変わらなかったが、夫は減りました。今年の冬のボーナスもあまり期待していません。(村山地区 38歳 500~799万)
- ・ 公務員ですが、給与は年々減っており、これからも増える見込みはありません。さらに増税で生活は苦しくなる一方です。住宅や車などを購入する意欲も薄れているのが現状です。(村山地区 44歳 500~799万)
- ・ 給料も減額され、ボーナスもない状況で、車も買えないのが現実です。国の、ローンの無利子補助でもあれば助かります。(庄内地区 38歳 300~499万)
- ・ 夏の賞与が減ったのは、とても痛かった。でも、今年3年目の家庭菜園も軌道に乗り、収穫の喜びを感じる事ができた。心のゆとり、また、子供の食育にもつながり、良かったと思った。(置賜地区 35歳 500~799万)
- ・ 収入は上がらないのに、税金等が上がる為、生活苦を感じる。(庄内地区 46歳 500~799万)
- ・ 6月の住民税増税に驚いた。2年連続なので、このまま増税になるのかと思うほどである。消費意欲が失せるのも無理ないと思う。(庄内地区 27歳 500~799万)
- ・ 収入より支出が多い月があるので、生活が大変だ。税金ばかり上がって行って、収入は減る一方。無収入でも税金を払わなくては行けないので生活が困難になる。(村山地区 69歳 ~299万)
- ・ 給与は減る一方。年金問題もあり、老後の生活に不安を感じています。(村山地区 55歳 800万~)
- ・ 給料はこれから先、増える事はないので、年金生活になった時が不安です。(庄内地区 54歳 500~799万)

資産価値

現状認識は「減った」(40.0%)と「どちらかと言えば減った」(19.6%)が59.6%を占めており、引き続き半数以上の世帯が資産価値は減ったと感じている。また、今後の見通しについても資産価値は「減る」と考えている世帯の割合が多く、資産価値の増加を見込む世帯は少ない。



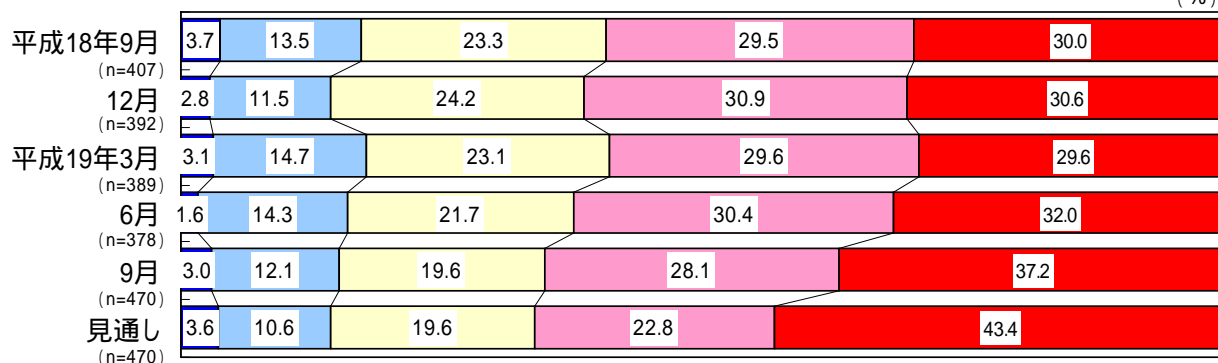
【主な自由回答 (住まい、世帯主年齢、世帯収入)】

- ・ 株価下落による金融資産の目減りが消費意欲を削いでいます。(村山地区 60歳 500~799万)
- ・ 定期預金の金利が昨年より上がったので、とりあえず、使わないお金を普通預金から1年定期へ移しています。(庄内地区 54歳 800万~)
- ・ 金利が上がり、貯金の楽しみができればよい。(村山地区 44歳 300~499万)

お金の使い方

現状認識は「控えている」(37.2%)と「どちらかと言えば控えている」(28.1%)が65.3%を占めており、お金を使うことを控えている世帯の割合は徐々に増えている。また、今後の見通しについても「控える」という世帯が増えているなど、節約に努める世帯が目立つ。

■ 積極的 □ どちらかと言えば積極的 □ どちらとも言えない □ どちらかと言えば控えている(控える) ■ 控えている(控える) (%)



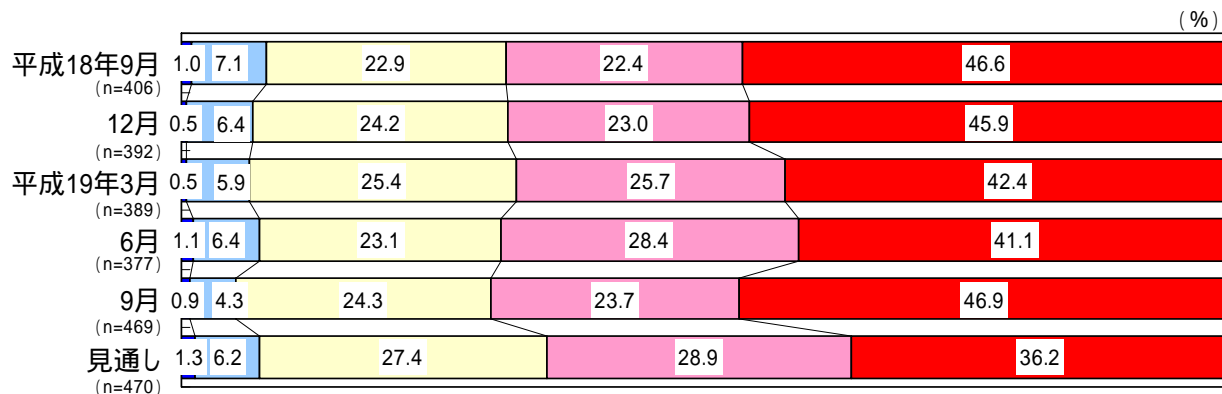
【主な自由回答 (住まい、世帯主年齢、世帯収入)】

- ・ 昨年よりも更に家計を切り詰めている。食品、日用品の物価が上がっている。ガソリンの高騰により、車を控え自転車で行動している。(村山地区 34歳 300~499万)
- ・ 冬を前に、オイル関係の製品が少し上がった、ガソリン価格は目が飛び出るほど上がったり…いかに車に乗る回数を減らすかが我が家のテーマです。(置賜地区 39歳 500~799万)
- ・ 我が家の家計の動きについては、大きな変化はないが、ガソリンの値上がり等で、無駄なお金は使わないようにするというのが基本です。(置賜地区 60歳 300~499万)
- ・ 旅行やレジャーが楽しみだが、ガソリンの値上りで遠出を控えている。(置賜地区 69歳 500~799万)
- ・ ガソリン価格が上昇し、遠出がしにくくなった。(村山地区 31歳 500~799万)
- ・ 金利が上昇しないと積極的にお金は使えないのかなという感じです。ガソリンも値上がりで、日用品や食品に反映されつつあり、経済が安定してくればという思いでいます。(置賜地区 55歳 800万~)
- ・ 日用品の値上げのニュースがあり、頭がいたい。底値の時にまとめ買いをしたり、ポイントを貯めるようにしています。(置賜地区 49歳 300~499万)
- ・ 私は週2回通院しなくてはならないので、積み重なると大変です。買物は、少々高くても、長く使える物を考えて購入しています。(村山地区 56歳 500~799万)
- ・ 子供達にお金がかかる時期で、何を節約したらいいのか考えている。(最上地区 44歳 -)
- ・ 来年、子供が県外に進学するので、無駄な出費をひかえています。(村山地区 47歳 300~499万)
- ・ ボーナスは堅実に貯金にまわしました。教育費の準備として積立、投信にと分散しています。(置賜地区 44歳 500~799万)
- ・ チラシやバーゲン等をフル活用して、日々を生活するのに精一杯です。教育費が一番かかる時期なので、預金は減る一方です。まして、ボーナスがまったくないので、来年は借入を考えないと生活できないのではと心配しています。(最上地区 52歳 500~799万)
- ・ 給料が上がる見込みがないため、定期、積立預金をやめ、ローンも借り換えに踏み切った。車も一台にし、とにかくシンプルな生活を心がけている。子供には苦労をかけたくない為、親の我慢が続いています。(村山地区 45歳 500~799万)

生活のゆとり

現状認識は「厳しい」(46.9%)と「どちらかと言えば厳しい」(23.7%)が70.6%を占めており、引き続き半数以上の世帯が暮らし向きは厳しいと感じている。また、今後の見通しについても、同様に半数以上の世帯が厳しくなると見込んでいるなど、生活にゆとりを実感できないでいる世帯は多い。

■ ゆとりがある(できる) □ どちらかと言えばゆとりがある(できる) □ どちらとも言えない □ どちらかと言えば厳しい(厳しくなる) ■ 厳しい(厳しくなる)



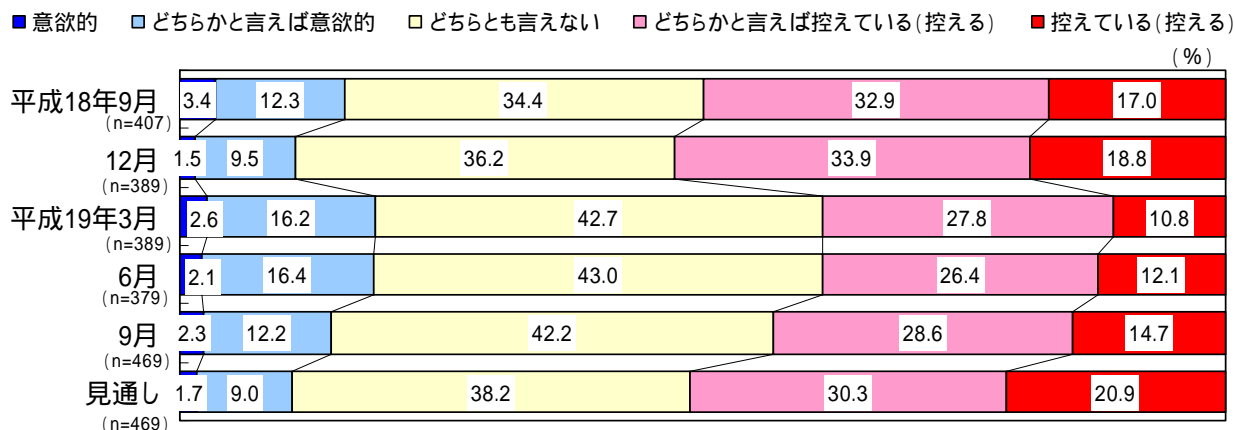
【主な自由回答 (住まい、世帯主年齢、世帯収入)】

- ・ 2人で一生懸命働いているのですが、なかなかお金が貯まりません。今後、景気は良くなるのでしょうか。物価ももっとも上がると思います。税金ばかり上がって、今後、生活が良くなるとは思いません。どうしたら良いのでしょうか。とても不安です。未来が見えません。(村山地区 42歳 300~499万)
- ・ 日々の生活で精一杯です。貯蓄の余裕はありません。3世代の同居は節約も難しい点がありますが、努力はしています。(庄内地区 69歳 300~499万)
- ・ 景気が良くなっていると言っていますが、実感がありません。逆に、給料・賞与とも減る一方ですし、ガソリンをはじめ物価は高くなる。医療費も増える傾向にあるし、これからの生活を考えると不安の方が多いです。(村山地区 57歳 300~499万)
- ・ 年齢を重ねるに連れて、生活が苦しくなっている。ちょっとした事に節約を心がけているが、いっこうに結びつかない。(60歳 800万~)
- ・ パートをして夫と協力して生活していますが、楽にはなりません。子育てしながらの仕事なので、欠勤も多く、預けるとお金もかかります。(庄内地区 33歳 300~499万)
- ・ その日暮らしをしているようなギリギリの感じ。教育費はできるだけ惜しまず支払っていきたくは思っています。(村山地区 45歳 300~499万)
- ・ 今後の生活はどのようになるか、不安で一杯です。収入のあては今現在の金額しかなく、将来は悪くなる一方です。(村山地区 51歳 500~799万)
- ・ 働けど働けど、暮らしは全く楽になりません。身近なところから節約をしていますが、それほど楽になるわけでもない。ボーナスは住宅ローン、車のローンに消えてしまいます。貯金も全くできず、老後の不安は募るばかりです。もう少し、ゆとりあるローン返済にすればよかったと反省しています。(村山地区 39歳 500~799万)
- ・ 生活はとても苦しい。夫婦共入院して、入院費は分割払いしています。2人ともパート社員のためボーナスはありません。健康保険や年金を支払うのにカードローンを使っていましたが、そろそろ限界です。(村山地区 49歳 300~499万)
- ・ 収入は、相変わらず減少しつつあるものの、だんだん慣れてきて、それほどイライラしなくなった。とにかく先の事は考えず、今を何とかやれればいいと思うようにしている。だから、先の生活への備えはなく、あとは落ちていだけだろうと思う。体調を崩したり、家がミシミシいうのを聞くと、ゾーっとするが、なるようにしかならないと諦めている。(村山地区 35歳 500~799万)

3. 日常の買い物に関する判断と見通し

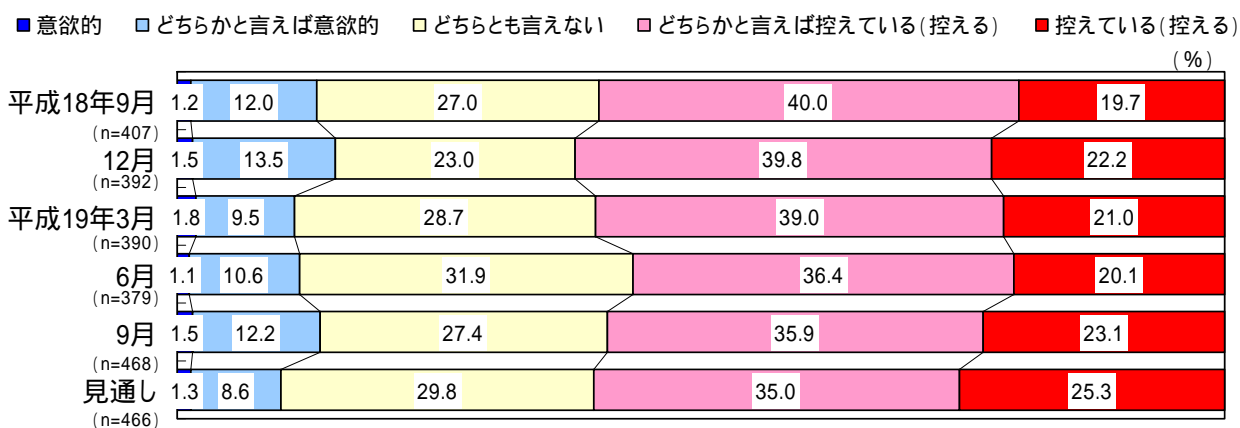
嗜好品（お茶・コーヒー、お酒、たばこなど）

現状認識は「控えている」(14.7%)と「どちらかと言えば控えている」(28.6%)が43.3%を占めており、前回調査時点よりも嗜好品の購入を控えている世帯が増えた。また、今後の見通しについても購入を「控える」という世帯が増えるなど、節約に努める世帯は多い。



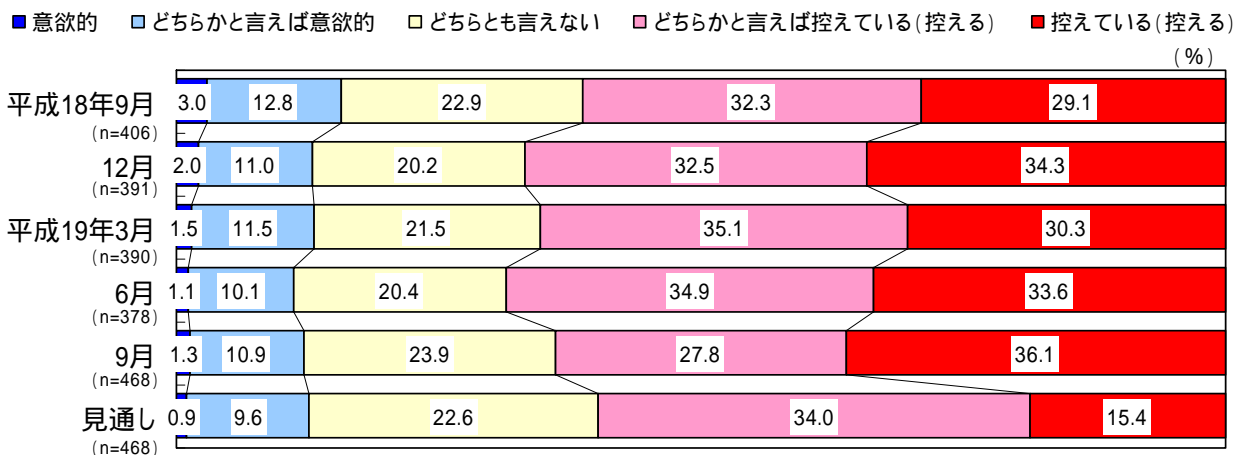
ファッション衣料・靴など

現状認識は「控えている」(23.1%)と「どちらかと言えば控えている」(35.9%)が59.0%を占めており、引き続き半数以上の世帯はファッション衣料・靴などの購入を控えている。また、今後の見通しについても買い控え傾向は続く見込み。



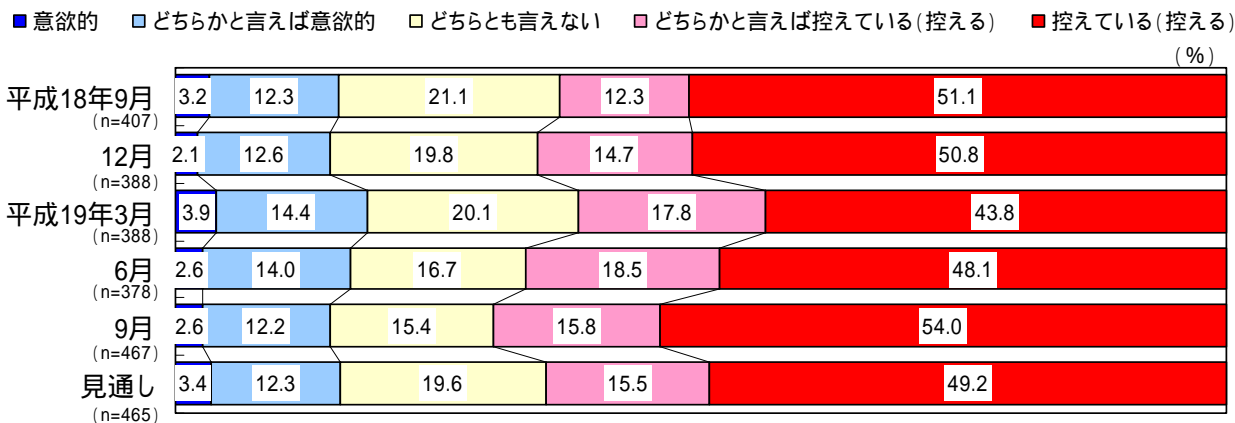
家電・AV製品、家具など

現状認識は「控えている」(36.1%)と「どちらかと言えば控えている」(27.8%)が63.9%を占めており、引き続き半数以上の世帯が家電・AV製品、家具などの購入を控えている。ただ、今後の見通しについては、引き続き買い控え傾向は続くものの、わずかに購入意欲の改善も伺える。



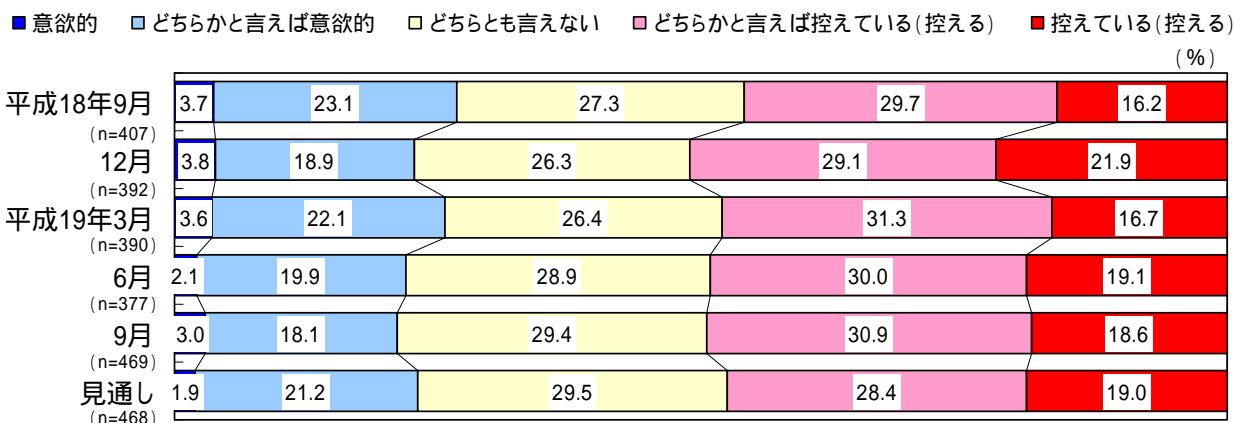
金融商品(株式、債券など)

現状認識は「控えている」(54.0%)と「どちらかと言えば控えている」(15.8%)が69.8%を占めており、引き続き半数以上の世帯が金融商品の購入を控えているほか、買い控えの傾向も徐々に高まっている。また、今後の見通しについても、購入を控えるという世帯は多く、購入に慎重な世帯が多い。



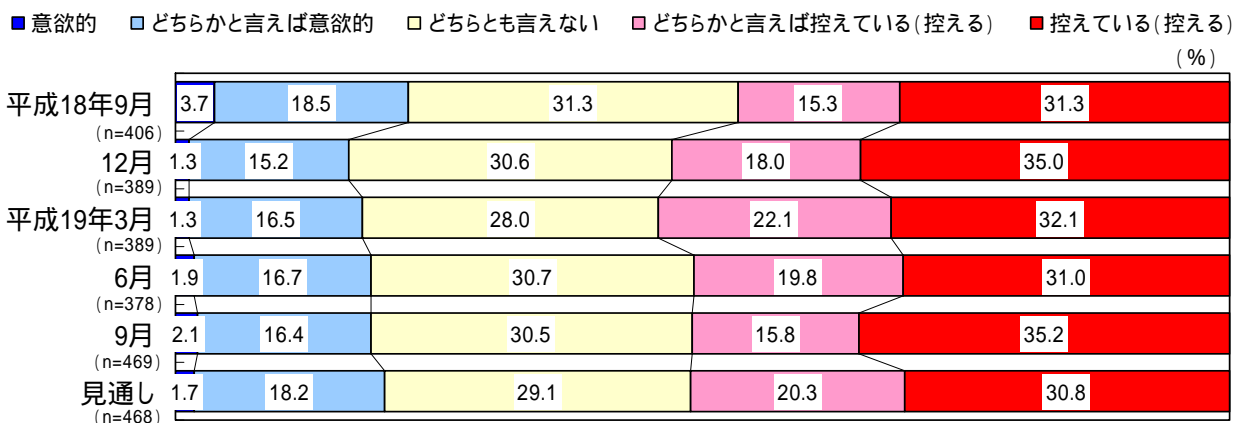
娯楽・レジャー

現状認識は「控えている」(18.6%)と「どちらかと言えば控えている」(30.9%)が49.5%を占めており、引き続き娯楽・レジャー等への支出を控えている世帯が多かった。また、今後の見通しについても、支出を控える世帯は多い。



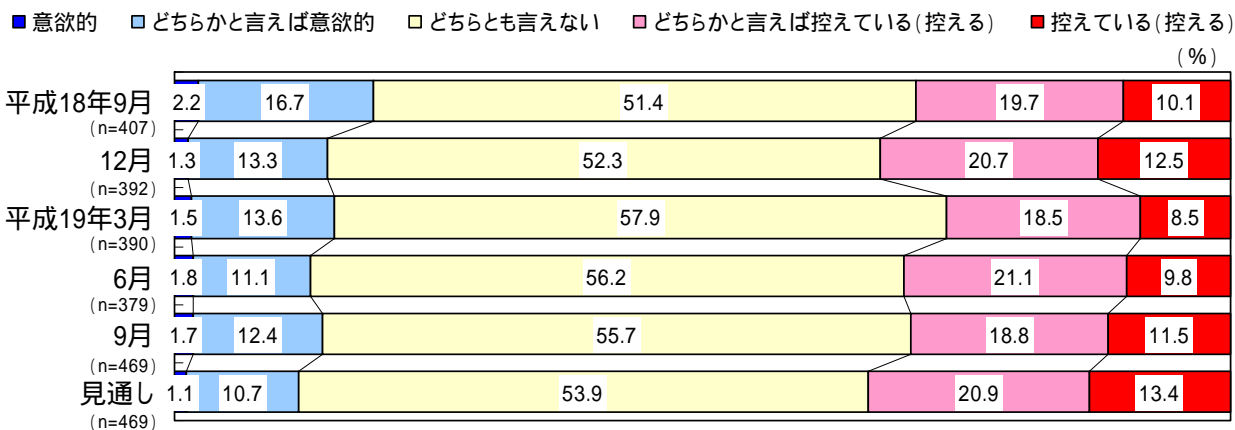
習い事

現状認識は「控えている」(35.2%)と「どちらかと言えば控えている」(15.8%)が51.0%を占めており、引き続き習い事への支出を控えている世帯が多い。ただ、今後の見通しについては、支出に意欲的な世帯が若干増加傾向にあるなど、マインドの高まりが期待できる。



交際費

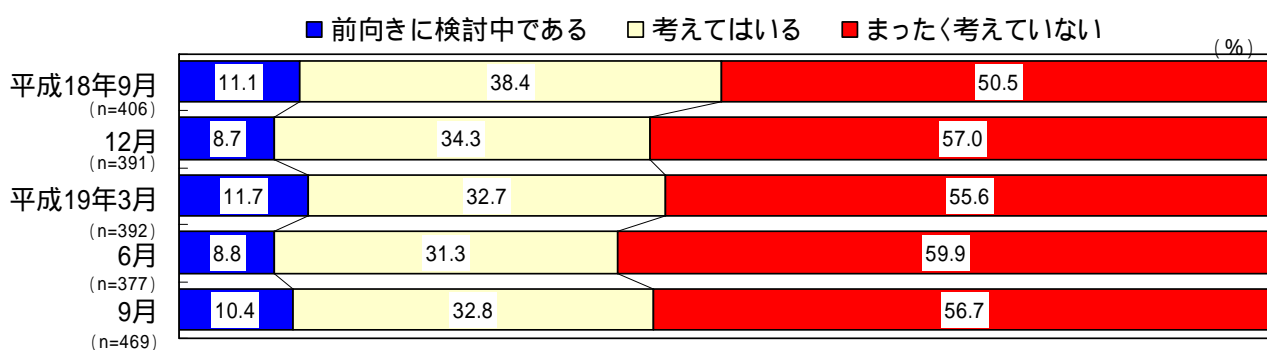
現状認識は「控えている」(11.5%)と「どちらかと言えば控えている」(18.8%)が30.3%を占めており、交際費を節約している世帯が多い。また、今後の見通しについても、交際費の支出を抑えるという世帯の割合が多く、支出を手控える傾向は続く。



4. 大きな買い物に関する判断と見通し

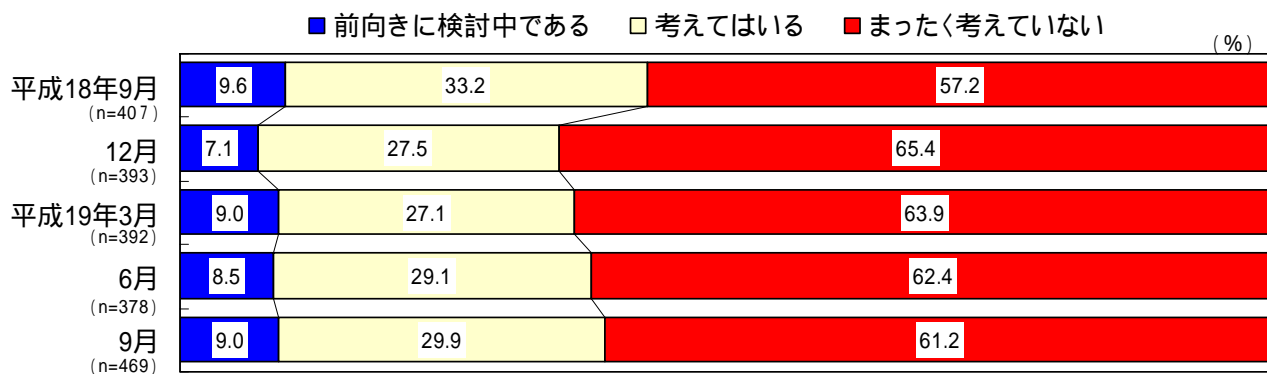
自家用車

自家用車の購入については「まったく考えていない」という世帯が56.7%を占めている。前回調査時点と比べて「まったく考えていない」という世帯の割合は3.2%ポイント減ったものの、いまだ半数以上の世帯は購入を考えていない。ガソリン価格も高値で推移していることから、引き続き購入を手控える世帯は多い。

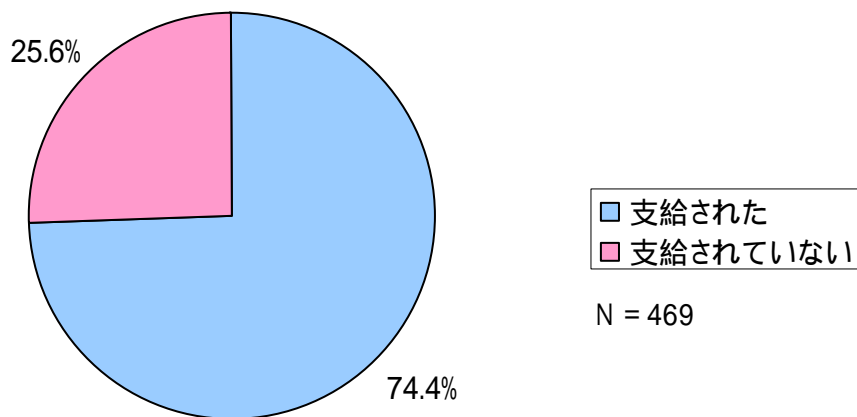


住宅の購入・リフォーム

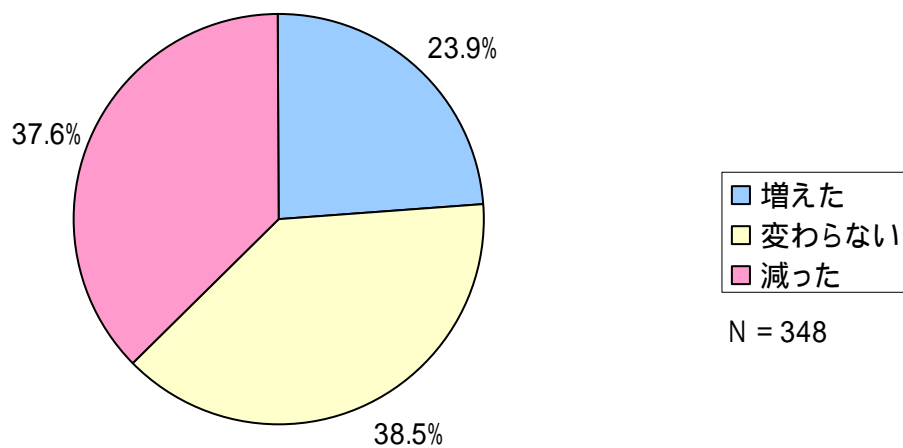
住宅の購入・リフォームについては「まったく考えていない」とする世帯が61.2%を占めている。前回調査時点と比べて「まったく考えていない」とする世帯の割合は1.2%ポイント減ったほか、4期連続で支出意欲の高まりがみられるなど、徐々にマインドは改善している。



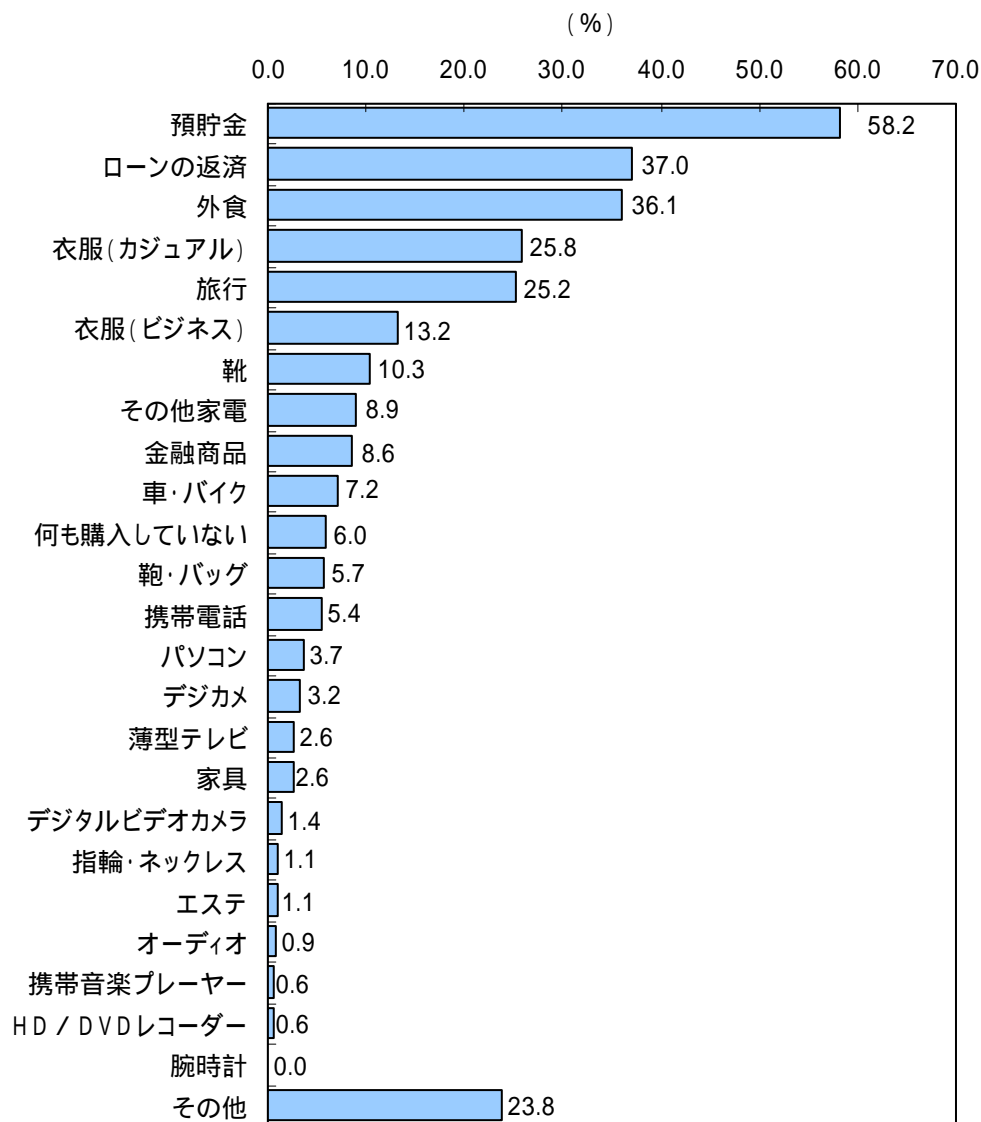
5. 特別調査：夏季ボーナスの支給状況と使い道
ボーナス支給の有無



支給状況



主な使い道（複数回答）



<その他の回答>

各種保険(16件)、教育費(14件)、納税(12件)、生活費(9件)、車検(7件)、住宅リフォーム(6件)、交際費(5件)、医療費(5件)、仕送り(5件)、カー用品(4件)、おもちゃ(3件)など

．調査の概要

1．調査の目的

県民の暮らし向きや今後の見通しについて時系列的に捉えるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。

2．調査の方法

- ・郵送調査専属モニターを利用したアンケート調査
- ・モニター世帯数：484 世帯　今回の有効回答世帯数（回答率）：470 世帯（97.1%）

3．調査の対象者

- ・県内に在住する勤労者（サラリーマン）世帯（世帯人数2人以上の世帯）
今回、モニター世帯の一部を入れ替えました。前回と同じモニター世帯は 278 世帯、新たに追加したモニター世帯は 206 世帯です。

4．調査期間

- ・平成 19 年 9 月 1 日～14 日

5．調査項目

（1）判断項目

景気判断（五肢択一）：

「県内景気」₁、「雇用環境」₁、「日用品価格（物価）」に関する現状認識と見通し。

暮らし向き（五肢択一）：

「世帯収入」₁、「資産価値」₁、「お金の使い方」₁、「暮らし向き」に関する現状認識と見通し。

日常の買い物や支出動向（五肢択一）：

「嗜好品（お酒、たばこなど）」₁、「ファッション衣料・靴など」₁、「家電・AV製品、家具など」₁、「金融商品（株式、債券など）」₁、「娯楽・レジャー」₁、「習い事」₁、「交際費」の支出に関する現状認識と見通し。

大きな買い物や支出動向（三肢択一）：

「自家用車」₁、「住宅（リフォーム含む）」の支出に関する現状認識と見通し。

（2）計数項目

最近 1 ヶ月の収支状況

6. 指数の作成方法

- (1) 「県内景気」、「雇用環境」、「日用品価格(物価)」、「世帯収入」、「資産価値」、「お金の使い方」、「暮らし向き」の7項目について、回答者の回答結果にポイントを与える。
- (2) ポイントの与え方は、例えば「県内景気」については、「良い」(1.0)、「どちらかと言えば良い」(0.5)、「どちらとも言えない」(0.0)、「どちらかと言えば悪い」(0.5)、「悪い」(1.0)とする。
- (3) 「県内景気」、「雇用環境」、「日用品価格(物価)」は家計を取り巻くマクロ経済環境に関する世帯の認識を把握するための設問であるため、回答者ごとにこれらのポイントを合計した後、「景気判断指数」としてまとめる。
- (4) 「世帯収入の増え方」、「資産価値の増え方」、「お金の使い方」、「暮らしのゆとり」は“我が家の暮らし向き”に関する世帯の認識を把握するための設問であるため、回答者ごとにこれらのポイントを合計した後、「暮らし向き指数」としてまとめる。
- (5) 「景気判断指数」と「暮らし向き指数」に対して質問項目数とサンプル数をウェイトとする係数を乗じ、両指数を標準化した上で足し合わせ、「消費指数」とする。

以上

<お問い合わせ先>

株式会社荘銀総合研究所

研究開発グループ 熊本/齋藤(信)

〒990-0043 山形県山形市本町1-4-21 荘銀山形ビル8F

TEL: 023-626-9017 FAX: 023-626-9038

E-mail: kenkyuu@sfsi.co.jp

URL: <http://www.sfsi.co.jp/>